

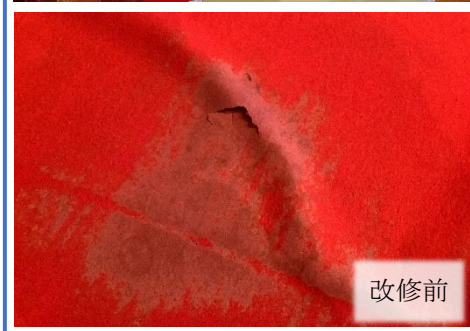
本堂修繕（畳・毛氈・太鼓）



改修後



改修後



改修前



改修後



改修後



改修前

本堂は平成7年に建設されてより30年弱の年月が経ちます。経年の劣化で、畳や毛氈などは日焼けし、摩耗でボロボロになってしまいました。太鼓については、本堂建設のはるか前より使っていたものと思われる。何とかごまかしながら使ってきましたが、資金のめどが立ち「畳の表替え」「毛氈の交換」「太鼓の張替え」をさせて頂きました。費用につきましては、ご寄付、手芸品の販売、護持会費などから捻出させていただきます。

老いこそが 別れの辛さ 軽くする

9月1日、祖母 政子の葬儀を行いました。98歳の天寿を全うしました。子供のころ一緒に寝ているとき「おばあちゃんが亡くなったらどうしよう・・・」と不安になり眠れなくなったことを覚えています。それから40年ほど時がたち認知症もあり私のことも分らなくなりました。

10年ほど施設でお世話になっていましたが、最後の1日、なんとか家に連れて帰ることができ、家族みんなで「おばあちゃんありがとう」と手を握りながら祖母は息を引き取りました。数年という短い時間しか一緒に過せなかったひ孫たちが、涙を流しながら「おばあちゃんの分まで頑張って生きる」と言って抱き合っていました。最後にその姿で人の命の尊さを小さな子供たちに伝えてくれました。最後に私たちが忘れることのできない大切な時間です。また、老いというものが、今回ほどあり難く感じたことはないかもしれません。もし、老いるという本来ならば厭うべきことがなければ、祖母との別れは受け入れることができなかつたように思います。老いるという現実が、良い意味で死別を諦めさせてくれてるように思いました。「おばあちゃん、たくさんの愛情を有り難う。」



数年前



亡くなる1時間前10人目のひ孫と対面

